

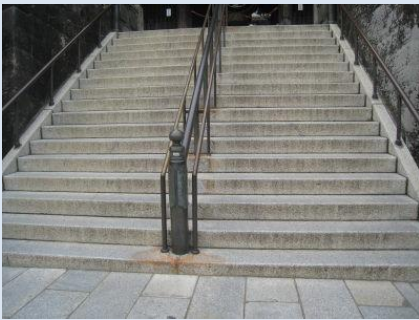
急勾配の石段

成田山の石段は、何故急勾配なのでしょう？

華嚴経（けごんぎょう）、善財童子（ぜんざい どうじ）

インドの長者の子に生まれた少年が、ある日仏教に目覚めて文殊菩薩の勧めにより、様々な指導者（善知識＝仏の道へ誘い導く人）53人を訪ね歩いて段階的に仏教の修行を積み、最後に普賢菩薩の所で悟りを開くという、菩薩行の理想者として描かれている。この五十三段の石段は、東海道五十三次と同様に「華嚴経」という「お経」からヒントを得たものです。仏の道を求める善財童子が五十三人の善知識者を尋ねて、深い知恵と大いなる慈悲の心を身に付けたところに由来します。皆様が石段を上がってお不動様にお参りする事により、**知恵と慈悲（いつくしみ と あわれむ心）**を深められるよう願っての事です。

善財童子（ぜんざいどうじ）という少年が、人生を知り尽くした53人の人々を訪ねて、悟りへの道を追究する物語



仁王門前 17 段の石段
継ぎ目がない



仁王橋前 3 段の石段



最後は急勾配の 33 段の石段
継ぎ目がある

全部で 53 段の急勾配の石段である。53 と言えば東海道五十三次と同じですね。

成田山の石段は東海道五十三次と同様、華嚴経（けごんぎょう）の話をヒントに造られた為、この様に急勾配となった様です。

徳川家康公は「華嚴経」の中にある

「善財童子が 53 人の人と出会う旅を経て菩薩になった」という説話に従って、この街道の宿場の数を決めたとも伝えられています。

写真でもお分かりと思いますが、仁王門前の十七段の石段は花崗岩（御影石）の一枚ものである。どこから切り出したのか、また何時代に造られたか分からないが、大変贅沢な造りである。

仁王門の説明文に間違いがあったので、訂正するよう一昨年成田山に伝えましたところ、直ぐに訂正されました。ただ「ふりがな」が間違えていただけです。

別当**道恕**上人「**どうじょ**」と読むところを「**どうによ**」のふり仮名がありました。